

ヒジで切られたときは「いっちょアピールしやがって」って思った

今、どんな心境ですか。
佐久間 10日ぐらい経ってるでしょ？ その間にいろいろな人と会って、「あのときはこう思った」とか散々話したから、今さら感激とかはないです。

KOのチャンスもありましたけど、最初から狙っていたのですか。
佐久間 試合前から、初回でKOするのが一番かと思ってました。だってすぐ終われば楽じゃないですか。立嶋の試合のときは、俺のパンチが当たってウィックとなって、立嶋のパンチが入ってウィックとなっていたから「これは試合が終わったらいい試合って言われるな」とか思いながらやっていたんですよ。俺が最初にダウン食らったときも全然効いてなかったから「絶対に奪い返せる」って思っていました。

最後まで声援を気にしてたんですね。
佐久間 ワックというの最後まで聞きました。1ラウンドは実際の声まで聞こえていました。さあ佐久間の左ミドル。3発目のハイは外れたとか。ハイじゃなくてミドルだよ、と思いつつ。最初のうちはセコンドの指示が噛み合ってなくて、セコンド同士で「まだ、それは言うな」って言い合ってる声まで聞こえたし。後で聞いたらなんかゲンカになってたらしいですよ(笑)。

どの時点で勝てると思ったのですか。
佐久間 初回から思っていました。でも、やっぱりどうかな…と少しあえす初回が終わっただけなんだ、って思ったたかもれないし。3ラウンドが終わってこれはいけるな、と。気持ち今は今まで一番良かったです。ヒジで切られたときは一番嫌だったんですけど。指差してアピールするから、そんなに切られたのがあって思ってたんですけど、そういう風にアピールすることはいよいよ(攻撃が)効いてるんだなって。たとえ俺があつた状態で立嶋を切ったとしても気持ち勝ってたから、続けて攻撃したと思うんですよ。ドクターチェックしている間に相手も休むじゃないですか。気持ちで勝てればもつとその間に攻めたいって思うんですよ、普通。だから「効いてるな。いっちょアピールしやがって」って思いましたね。ダウン食らったときも、俺がすぐ立ってコーナーを見たから、立嶋が怯えたって言ったら変だけど、そういう表情をしてたんですよ。すぐ立って来たな、って顔をしてみたら「これはアピール、いつもの強気の立嶋じゃないな」と思って。

次はフェザー級のベルトがかかったタイトルマッチですね。
佐久間 二ラウンドとき何で言うか考えていたんだけど「ミッド」って言葉のは通断は絶対しない、ってこと。周りが言ってくれるほど自分は全く浮かれてないです。実際、杉木には負けず。そういうのもあって立嶋終わって杉木というのは、俺の中ではドラマができてあがってるんですよ。今、チャンピオンはいつ降りるかわからぬ。周りでも「次に勝つのは日本

Interview

佐久間晋哉

“勝って当然”

の試合に勝っただけ
自分の実力が正しいとは思っていない



チャンピオンだよな」とか騒いでくれるけど、そんな気はしないですね。全員倒せば別だけど。

そのドラマは今の時点では順調ということですね。
佐久間 この2、3戦は。それまではつまづいてばかりでしたけど。最初にダウンして、その後奪い返してとか、やろうと思ってもできないですからね。頭の中ではそうだったからカッコいいだろうな、って描いてましたけど、狙ってもできませんからね。そういう意味では出来すぎかな。

立嶋選手に勝ったことで、次も勝てるという自信が生まれたということはないですか。
佐久間 たぶんそれは周りがそう思っているだけで、俺の中では一戦一戦戦って行く上で、どうメニューをこなすか、ということだけです。これからは一戦一戦勉強していかないと。まだ誰がきてもOKというほどのレベルまで行ってませんから。

それに、立嶋に勝ったからといって、すごく自信がついたわけではないです。あれは試合前からの気持ちのもつていき方が良かったからで、俺の中では「勝って当然」という感じだから「俺は本当は実力があつた」という気持ちではなかったです。そういう気持ちのもつていき方を身に付けると、これからは戦いやすいのでは？

佐久間 と思いますけど、とりあえずこれがスタートですから。ようやく、これからどんな強い選手と戦っていくのか」ということを考えられるようになったばかりでしょう。だから「まだまだ」って俺の中では思っているんですよ。

会場以外で声を掛けられるくらいみんなに知られるようにしたい

どういう選手を理想としていますか。
佐久間 実際には強いけど、テレビに出てないから普通の人はわからない、というのはいくらもないな。そういう人じゃ嫌だな、と。プロの世界

だから、強くなれば絶対にマスコミに出るじゃないですか。K-1とかもあるし。そのK-1に出るために強くなると、石井路喜も認めてくれないだろうし。K-1に出場希望ですか。

佐久間 出たいですよ。みんなに知ってもらえるじゃないですか。あれだけの現実に見てもうえたら気持ちいいと思います。K-1の試合がスリリングに映し出されたりしてカッコいいじゃないですか。格闘技に興味のない人でもK-1のことは知っていますから、いずれ出場できれば、と思っています。

最後に、これだけは言っておきたいこと、つてありますか。
佐久間 急に言われても……。まあ、みんなに知られたいですね。今なんて誰からも声かけられないし。前に会場で声かけられたことあるんですけど、試合の会場に来た人でしたからね。会場以外でも振り返ってもらえるくらいになりたいです。一般誌にも掲載されたいし、テレビにも出たいです。この前の試合だって雑誌にしてもタイトルになるのは立嶋の方でしょう。「佐久間激勝」じゃなくて、まだしようがないとは思いますが、そういうのがいい気になりますよ。



フェザー級王座決定トーナメントでは、立嶋篤史にダウンを奪われながら、2度のダウンを奪い返し逆転勝利を飾った佐久間。21歳でデビューを果たしたとき、同年の立嶋はすでにチャンピオンであり、エースの地位を確立していた。あの時から佐久間は4年近くを費やし、スタート地点から一番遠いところにいた立嶋を降し、ようやくベルトに手が届く位置まで迫り着くことができた。タイトルマッチは4月29日。あの試合は番狂わせだったと言われないためにも、絶対に落とさない一戦だ。決戦を控えた佐久間に今の心境を聞いてきた。

PROFILE

●さくま・しんや 1971年6月26日、新潟県出身。血液型A型。小学校で陸上(短距離)、野球(ピッチャー)、中学校で野球(ショート)、高校ではサッカー部に所属しセンターフォワードを務めた。大学入学後、一心館に入門。83年6月にデビューを果たす。5回戦昇格後は、元・パンナム級王者の東海太郎(谷山)、大柴ひろし(治政館)を連続している。現在の戦績は14戦8勝(8KO)5敗1分。全日本キックボクシングフェザー級2位。身長174cm。通常体重51~52kg。休日は洋服を買いに行ったり、サウナやビリヤード、飲みに行くことが多いという。現在所属する八王子FSGでインストラクターを務めている。